

【中学校・1年・音楽・「我が国の伝統音楽のよさや魅力を味わおう」】

育成を目指す資質・能力

A 1（教材の提示）

C 2（協働での意見整理）

箏の音色や響きと奏法との関わりを理解し、我が国の伝統音楽のよさや魅力を味わうことができる。

ICT活用のポイント

【活用したソフトや機能】 ホワイトボードソフト 付箋機能 カメラ機能

付箋機能を活用して意見整理することで、様々な感じ方を知り、知覚・感受を深めることができる。

学習の流れ

我が国の伝統音楽や箏の奏法に関心をもつ。

箏の音色を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。他者の感じ方を知り、自分の考えを深める。

箏曲の鑑賞を通して、速度の変化に気づき、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。

思いをもって器楽表現し、我が国の伝統音楽のよさや魅力を味わい、箏の紹介文を書く。

事例の概要

本題材は、我が国の伝統音楽に関する学習の導入として、生徒が抵抗感なく学習できるように、3年間を見通した題材として設定した。器楽と鑑賞の活動を通してよさや魅力を味わうとともに、箏の音色や響きと奏法との関わりを理解し、演奏技能を身に付けることをねらいとしている。普段の生活では馴染みの薄い伝統音楽に対する興味・関心を高めるため、「A表現」「B鑑賞」の各領域を関連付けた題材構成とした。

授業では教師用端末のカメラ機能を用いて大型テレビに指導者の手元を映し出すことで、箏の奏法を視覚的に確認しながら学べるようにした。また、ホワイトボードソフトに付箋でそれぞれが知覚・感受したことを書き込み、意見を交流したりまとめたりすることで、他者の感じ方を知り、自分の考えをより深められるように工夫した。

【中学校・1年・音楽・「我が国の伝統音楽のよさや魅力を味わおう」】

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



ICT活用のポイント

ホワイトボードソフトは、生徒が比較的簡単に操作でき、意見交換や話し合い活動の場面で有効活用できる。グループごとにシートを分けたり、付箋を移動させて要点ごとにまとめたりすることができるため、出された意見を効率よく整理することができる。グループで出された意見を生徒同士で考えてまとめる活動を行うことで、学習をより深めることができた。また、コロナ禍で話し合い活動が制限されていても、意見交換ができるという点でも効果的である。

本題材では二人で一面の箏を使用した。距離を保ちつつアドバイスし合ったり、話し合ったりする活動は行えるが、ペアの生徒以外の考えを得ることが難しい。そこで1人1台端末を活用することで、学級全体で意見交換をすることができ、気付いたことや感じ取ったことを共有して学習の深まりを実感することができた。

奏法の学習では教師用端末のカメラ機能を活用し、大型テレビに指導者の手元を映し出し、生徒が視覚的に捉えられるようにした。また、生徒自身の演奏の様子を撮影することで、自分の思いや意図の通りの表現ができているかなど、客観的に振り返ることができた。

中学校1年・音楽「我が国の伝統音楽のよさや魅力を味わおう」

使用機器：1人1台端末、大型テレビ 使用アプリ：ホワイトボードソフト

〈ICT活用のポイント〉

- ① ホワイトボードソフトを活用することで、生徒同士の意見交換ができる。
- ② 鑑賞活動を通して、生徒一人一人が知覚・感受したことを共有することで、自分と違う感じ方を知り、深めることができる。

1 題材の目標

- (1) 我が国の伝統音楽の特徴や箏の音色や響きと奏法の関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。
(知識及び技能)
- (2) 音色、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽演奏を創意工夫するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、我が国の伝統音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 我が国の伝統音楽の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 (器楽)	思 ① 音色、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(鑑賞)	態 我が国の伝統音楽の特徴や、箏の音色や響きと奏法との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽と鑑賞の活動に取り組もうとしている。(器楽・鑑賞)
② 知 「六段の調」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞)	思 ② 音色、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫している。(器楽)	
③ 技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 (器楽)		

3 題材について

生徒が我が国の伝統音楽に関心を持ち、器楽と鑑賞の活動を通して魅力やよさを味わうとともに、箏の演奏技能を身に付けることをねらいとして題材を構想した。あまり馴染みのない伝統音楽に抵抗なく触れさせるために、「A 表現」「B 鑑賞」の各領域を関連付けた授業を展開することとし、興味・関心を持ちやすい箏の演奏と鑑賞を題材として設定した。ICT機器を活用することで、自分と違う感じ方を知り、深めることができると考えた。

4 指導と評価の計画（4時間）

時間	学習内容	評価の観点				備考
		○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価				
		知識	技能	思・判・表	主体性	
1	・「さくらさくら」を聴いて、我が国の伝統音楽、箏の奏法に関心をもつ。	○			↓	
2	・箏の音色を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。 ・「引き色」「後押し」の奏法を弾き、音色の変化を感じ取る。	◎				・音色について聴き取り、感じ取ったことを、付箋機能を活用して共有する。 ・手元をカメラで撮影し、生徒に提示する。
3	・「六段の調」の鑑賞活動を通して、速度の変化に気付き、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。	◎		◎		
4	・思いをもって「六段の調」の一節を演奏する。 ・我が国の伝統音楽のよさや魅力について触れ、箏の紹介文を書く。	○	○	◎		◎

5 ICTの効果的な活用について

ホワイトボードソフトは、生徒が比較的簡単に操作することができ、意見交換や話し合い活動で有効活用することができる。また、グループごとにシートを分けたり、付箋を移動させて要点ごとにまとめたりすることができるため、出された意見を効率よく整理することができる。グループで出された意見を生徒同士で考えてまとめる活動を行うことで、学習をより深めることができた。また、コロナ禍で話し合い活動が制限されていても、意見交換を行うことができるという点でも効果的である。

本実践では、二人で一面の箏を使用した。距離を保ちつつアドバイスを出し合ったり、話し合ったりする活動は行えるが、ペアの生徒以外の考えを得ることが難しい。そこで、1人1台端末を用いることで、学級全体で意見交換をすることができ、気付いたことや感じ取ったことを共有して学習の深まりを実感することができた。

奏法の学習では教師用端末のカメラ機能を活用し、大型テレビに指導者の手元を映し出し、生徒が視覚的に捉えられるようにした。また、生徒自身の演奏の様子を撮影することで、自分の思いや意図の通りの表現ができているかなど、客観的に振り返ることができた。ICTの活用場面を絞り、目的を明確にして活用することで、生徒の学びを深めることができると実感できた。